

も見られました。当時の私たち教員の胸の内には「入学したときは悔し涙であつても卒業するときは西高でよかつたとうれし涙にしてやろう」という痛切な思いがあり、様々な独創的指導が立案され実行に移されました。

こうした学校群時代も終わり頃の数年には制度廃止が周知のこととなり、校内には危機感がつり、生き残りをかけた必死の指導が行われ、毎年三月に行われる卒業生の進路状況発表の際には、その結果を息をこらして見守るといった雰囲気のみならず、新しい複合選抜制度は伝統校復活を目指すものであり、なかなか実績では西高が時代の潮流にのまれてしまうことは必至のことでした。おそらくこの数年間で西高で最も大きな成果が上がった時期であつたと思えます。ようやく入学生も多くが「西高が良い」と言ってくれるようになったもの頃です。

さて複合選抜の時代となり、もはや伝統校の名声を借りて生徒募集はできなくなりました。地理的、制度的不利を克服して西高の独自性をいかに築き上げるかが容赦なく問われることとなりました。実際、数年の内に県内の高等学校の有様は激変しました。幸い新制度入試の下で入学してきた生徒達は従来と遜色なく、とりわけ人柄の良さは私たちを大いに勇気づけ、海図なき変革の荒海の中を細心の注意を払いつつも果敢に改革を断行し船を進めて行きました。当時教師も生徒も「西高のアイデンティティ」という言葉をよく口にしました。初めての卒業生達はその特色を生かし学校群時代にも成し得なかつた成果さえ上げてくれたのです。

続けてきました。結果として個人の考え方の違いを包み込み実力を重んじる大度な気風と合理的精神が培われ、同じことをしては同じ結果は得られない、伝統とは改革の集積である、と躊躇なく言える思考法が養われました。

このように言うよう進路実績のみを冷徹に追求してきたように思われるかもしれませんが、決してその一性の中には進路保障と並んで「西高の自由」という概念があります。すなわち、西高祭を中心にした行事と部活動という生徒自身が積極的に取り組む活動を保障するということ、一人ひとりの生徒の意志が尊重され指導されるということ、です。実際、学校が週五日制になるに際しての議論の中で、学習と行事は対立しました。しかし、議論はどちらを選択するかという方向には向かわず、両者のバランスをいかに取るか工夫するといった、より成熟した付加価値の高い解決法を模索することになりました。

例えば、自由経済を土台とする私たちの社会は、自由のおかげで創意工夫と切磋琢磨により技術革新をもたらしました。しかし、一方でこの社会は自己責任と自由競争の果てに格差と不平等を内包し、大きな問題となつていきます。とはいえ私たちは自由と資本主義を捨てたのではなく、不完全な制度であつても、どれほど時間がかかっても、根気強く改善を続けざるほかありません。

「強くなければ生きていけない。優しくなければ生きていく価値がない。」

西高は互いに矛盾する価値を並立させ、長い時間をかけて立ち止まることなく、工夫改善を重ね、より成熟した学校という小社会を築いてきました。私たちが悩みな

がら歩んできた道は、なにやら二十一世紀の社会が進むべき道と似ていて、誇らしい気持ちがないでもありません。

こうして書き綴ってきたところで思い出すのは、次の格言です。「人は怠りがちな存在である。なかでも自分がいかに幸福であるか思い出すことをとくに怠りがちである。」西高を離れた今、添削指導をした卒業生たちがくれた手紙を読み返しながら、自分がいかにこの学校で幸福な時間を過ごしていたか思いあたり、そのことに気づくことになつた自分を恥じると同時に、私とともに過ごしていただいた卒業生、職員の方々に心より感謝致します。

お世話になりました。

中西 幸子先生

三月二十九日学校の正面玄関から大勢の先生方に送られた出た時思い出深い西高と長い教員生活に一つの区切りがついたという想いで胸の中が一杯になりました。

昭和四十一年の春、教員三年目で本校に参り第一回生の、知性と美貌とエネルギーに溢れる女子クラス四組の副担任として始まつた西高生活。四クラスで行う学校行事の数々もみんな初めてやることばかり。先生方のご指導はあるものの先頭に立つて暗中模索しながらやり遂げてこられた一回生の方々。どれもこれも基礎から作り上げていく中で創意工夫とねばり強さ、力を合わせてとことんやり抜く気風を育まれた。それが後の西高の伝統の礎になつたと思えます。四十五年の三月、西高とお別れた時には、再び戻つてこられる日があるなど、夢にも思いませんでした。

平成九年、職員室でお会いした

先生方が発せられる雰囲気、ふるさとに帰つたような懐かしさと現場での緊張感を感じました。生徒を大切にしている面、見の良さ、授業で勝負しようという気迫が漲つていました。生徒達も先生方の応援に必死で応えています。私がいなかった間の西高の成長は著しく、目を見張るばかりでした。学習はもちろぬ、部活や、西高祭など学校行事の素晴らしさは、保護者の中に多くの同窓生の顔が見られることに端的に表れています。新しいエネルギーが満ちあふれています。頑張ってください。

西高&INTERNET

- 1 西高OBのホームページ
9回生の鷺津秀樹さん主宰。西高の学校行事、部活動などの話題や、OB同士が情報交換できる掲示板など盛りだくさんで楽しい内容です。ぜひ、ご覧ください。http://www.ops.dti.ne.jp/iwh/
- 2 西高メーリングリスト
28回生の牧さん主宰。西高の話題を中心に、さまざまな情報を交換しています。申し込みは、牧さんまで。
E-mail maki@claris.office.ne.jp
- 3 同窓会事務局へのお便り・出欠のご返事もE-mailでどうぞ。
E-mail iwh-d@owari.ne.jp



●同窓会報原稿の募集

同窓会事務局では、会報に掲載する原稿を募集しています。卒業後さまざまな分野でご活躍の皆さんの近況をお知らせください。経営している会社や商店のこと、趣味や旅行のこと、ご家族のこと、何でも結構です。また、同窓会の活動や会報についてのご意見、ご要望をお待ちしています。同窓会事務局あて郵便かFAXまたは「FAX」でお送りください。合わせください。

●同窓会名簿の作業

来年度は名簿発行の年になりますので、住所確認ハガキが届きますのでご協力お願いいたします。また、名簿の編集は廣済堂に依頼しております。それ以外の業者は関係ありませんのでご注意ください。